



わが進明

校訓：明るく 正しく たくましく

福井市進明中学校
学校だより 第6号
令和元年6月11日
TEL (0776)20-5128
FAX (0776)20-5129

URL <http://www.fukui-city.ed.jp/shinmei-j/>

○松本公民館で「中学生の勉強室」開設

5月30日(木)から6月6日(木)まで、松本公民館で『中学生の勉強室』(仮称)が開設されました。福井新聞でも紹介されましたので、御存知の方も多いと思います。これは、本校の定期考査期間中に合わせて、中学生向けの勉強スペースを開放していただくというものです。定期考査期間中は部活動も停止となり、生徒にとっては平日の放課後や休日に時間的余裕が生まれます。自宅ではなかなか一人では学習に集中できないという生徒のために、その学習スペースを提供していただくという取組です。また、松本公民館では、この勉強室で中学生の学習を支援して下さる方も募集していただきました。地区内にお住まいの退職教員の方々を中心に、6名の方に「まちの先生」という立場で御協力いただきました。「まちの先生」から直接御指導いただいたり、生徒同士でわからないところを教え合う姿が見られました。福井新聞社の記者からの質問に、1年生の稲津雫さんは「先生もいるので家よりも勉強がはかどる。毎日通って目標の点数が取れるよう頑張りたい」と答えていました。7日間で、のべ229人の生徒が利用しました。御協力いただいた方々に改めてお礼申し上げます。

さて、このような地域と一体となった学力向上の取組は、福井市はもちろん全国的にも珍しいのではないかと思います。これは、学校から公民館にお願いして実現したものではありません。昨年度、松本公民館の年末大掃除に、生徒会執行部の呼びかけにに応じて、たくさんの生徒たちがボランティアとして参加しました。地区の大人たちと一緒に清掃活動に取り組む生徒たちの姿に下條公民館長さんはとても感激されたそうです。今度は、公民館として中学生のために是非恩返しをしたいという思いから生まれた企画なのです。「公民館主催の行事に、たくさんの小学生たちが親子で参加してくれるが、中学生になると公民館を利用する子どもはほとんどいなくなる」ことを、館長さんは日頃から残念に思っておられたそうです。「公民館に中学生が少しでも足を運んでくれ、地域の人たちとふれあうことは、地域の大人たちにとっても大変有意義なことなのです」と、館長さんは語っておられました。この公民館主催の「中学生の勉強室」は、学校にとってはとてもありがたい取組ですが、公民館にとっても意味のある活動となっているようです。持続的な地域連携を推進していくためには、このような互恵的な関係づくりが不可欠のだと改めて感じました。



○出張音楽堂開催 ～一流の世界に浸りました♪～

6月7日(金)、本校で福井県、福井県文化振興事業団が主催する「出張音楽堂」が開催されました。



この事業は、福井ゆかりのプロの演奏家を県内の中学校等へ派遣し、優れた芸術を鑑賞する機会を通して音楽への理解を深め、豊かな創造性、人間性を育むことを目的としています。豊永美恵氏のクラリネット、竹沢友里氏のピアノ、松谷由美氏のヴァイオリン、山崎智里氏のマリンバが奏でる楽器特有の本物の音色が会場中に響き渡りました。

○松本公民館清掃ボランティア

6月8日（土）、松本公民館の外回りを中心に大掃除が行われました。公民館からの要請に応じて、本校のハートフル委員会が「地域との交流を大切に」を合い言葉に、清掃ボランティアを募集しました。当日は、9名の生徒たちが、窓ふき、草むしり、外壁磨き、花壇の整備等に汗を流しました。



○地域の方からお花をいただきました



朝、登校してくる女子生徒が花束を持って校長先生のところへ駆け寄ってきました。事情を聞くと、登校途中、町屋の交差点で信号待ちをしていたら、見ず知らずの地域の方から「教室にでも飾ってください」とアルストロメリアの花束を渡されたのだと言います。学校のことを気にかけてくださる地域の方々がおられることに、大変感激しました。早速、校長室などに飾らせていただきました。本当にありがとうございました。

○学びの風景 ～進明校区を数学する「北陸新幹線高架の面積を求めよう」～



本年度は、子どもたちの主体的で協働的な学びを実現するために、そして、子どもたちを深い学びへと誘うために、地域資源を生かした授業づくりに挑戦しています。その第一弾となる記念すべき授業が行われました。見崎先生の3年1組数学「北陸新幹線高架の面積を求めよう」という授業です。

まず黒板には、北陸新幹線の工事ルートを示した航空写真（上図参照）が貼られました。2023年春の開業に向けて、現在校区内の至る所で工事が急ピッチに進んでいます。航空写真を使って北陸新幹線のルートを確認していきます。写真だけではわかりにくいので、ユーチューブからの動画も使って確認します。テレビ画面には、子どもたちにとって見慣れた施設や建物が次々と映し出されていきます。進明中の校舎が映し出された瞬間、「おっ」という歓声も上がりました。身近な地域素材を扱っているだけで、子どもたちの学習意欲はいつも以上に高まっています。目を輝かせながら、わくわくしながら授業に参加しています。そこで、授業者から「この新幹線の高架の面積を求めするにはどうしたらよいだろうか」という課題が提示されました。



さて、皆さんならどのようにして求めますか、一緒に考えてみてください。新幹線の高架ルートは決して真っ直ぐではありません。特に市街地では既存の建物を縫うように曲がりくねって進んでいます。カーブしている部分をいくつかの長方形に区切って求めようとするか。あるいは、カーブを円の弧の一部と捉えて求めようとするか。どちらもとても時間がかかるし、時間をかけて求めたところで正確な数値にはならない気がします。もっと簡単に正確な方法はないのでしょうか。実は、高架の幅が一定だとすれば、その長さとおともう一つの長さが分かれば、簡単に求めることができます。ヒントは、右の図です。半径 r の円形の花壇のまわりに、幅 a の道がついています。この道の面積を求めるにはどうすればよいでしょう。3年生の皆さんはわかりますね。そう、この道の面積を s 、道の真ん中を通る円周の長さを l としたとき、 $s = al$ となることを証明すればよいのです。つまり、たとえ曲がりくねった道でも、「道幅×道の長さ」でその面積を求めることができます。これを使えば、新幹線高架の面積も、高架の幅とその長ささえ分かれば、簡単に求めることができます。こうした授業を通して、子どもたちは、日常事象を数学する楽しさを味わっていきます。

